日本プロレタリア音樂家同盟ニュース

第十三號

東京市外上落合460.
日本プロレタリア音楽家同盟発行.

新たなる組織のもとに勇に奮起せよ！

全同盟員、研究生諸君！

刻々に激化する社会状勢は、日本のXX的プロレタリアートの急速な躍進をしめし、一方今や全プロレタリア文化運動の統一的活動を必要ならしめ、文化聯盟の結成を促進せしむるに至つた。

我が音楽家同盟もナップ他同盟と共に文化聯盟の一団体として多くの友誼的関係にある文化団体との緊密なる協力に依つて、更に広汎な範囲にわたつてプロレタリア文化運動の一翼として音楽の領野に於いて猛然たる活動をまき起さうとするものである。

最近の満洲事変に際して露骨に示された様に、反動教化用具として資本家地主階級は音楽をどんなに握つてはなさないか。音楽は文化の領域に於いては力を持つてゐる。我々は青年、少年婦人に対して音楽は大きな力も持つてゐる事を知らなければならない。更に我々の知らなければならない事は、それらが便宜に結び付けられて、あらゆる文化的施設、組織、機関の中に必ず音楽が効果を見る事である。

日本プロレタリア文化聯盟の旗の下にすでに我がP.Mも積極的な斗争を展開せんとしてゐるが。各部各班は今後さらに慎重な態度を以つて活動の組織的、計画的、展開を討議対策し、以つて更に更に広汎な範囲にわたる、仕事、企業内にプロレタリア音楽の根を植え付けるやうに努力せねばならない。

次々のカンパに備へよ！

八、一カンパから国際無産青年デー、それから十七日の渡政デーのカンパとP.M煽動活動部は各地各所に活潑な斗争も続けて来た。青年XX車庫の座談会の席上では万場一致で文化（音楽）サークルが作られる事になつた。又月島の前衛座の公演には患態の奏するために二日目た一人しか行ける われわれたのは期待された労働者諸君に於ても全く消されなかつた。労働新聞にまで興味一〇〇パーセントに鞭導された浮間ヶ原のピクにも示威運動、その他多くの活動が各カンパに結び付けられて行はれてゐる。

だが、カンパを具体的にうながしたうた内容曲があるか、青年デーのうたはの？渡政のうたはの？さう言つた風な制作のない事はP.Mの活動の力弱さと不充分さを暴露することの他の何物でもなく。

今や日支ブルだけでなく世界のブル共はプロレタリアの祖国ソヴエート、ロシアを目指して、ロコツな挑戦的態度を示してゐる。渡政デーから十一月の記念日へ第一に我々は戦争反対の[illegible]

次々のカンパに備へよ。カンパに参加するのは我々の重大な任務である事は言ふまでもない。作曲家は直ちに反戦のうたを作れ。うたふ者は誰にきかれても判り答へられる様に用意しろ。さうして勇敢に斗へ。さうしてこそP.Mに対する大衆的関心と支持を得るのだ。

戦旗の夕

第一日の時にPMを封じられた経験から退擇にP.Mから届出での時に交渉に行つたが、何としても応ぜず鳴物一切まかりならぬと言ふケンマク。先の総会で決議した様に講演者に禁止に対する抗議をさせる様にした。講演者（山本）がなれまいせいもあつたらうが余り効果はなかつた。我々はあらゆる機会にこの禁止に対する抗議をたゆまず行はねばならない。

音樂新聞

第一號予定
十月二十日發行

音樂の好きな労働者農民は讀め!!

委員会報告

九月二十五日（流会）

九月二十七日、出席者（露木、関、原、山本）四名のため正式に持つことが出来ず打合せに止める。

九月三十日、出席者、（露木、関、原、河野、山本、）の五名。

各部報告は略す。

一、財政に関する件

同盟ヒが全納されたものとして各機関の入ヒ割当額をきめる。差し当って一番入要な書記局交通ヒに一、七〇銭、全通信ヒに二〇〇。その他組織部へ二〇〇。毎月定額を財政部から給する。その他の部に於いては随時に請求する。

一、文化聯盟に関する件

中央協議会並に各委員会へ送るメムバーとして委員会案は

協議員——山本、福田、
少年委員会へ——山本、
婦人委員会へ——河野、
青年委員会へ——福田、
農民委員会へ——露木、

以上の通りである。

一、機関紙並に大衆新聞に関する件

すでに機関紙並に大衆新聞の必要は目下の我々の急務としてとり上げられ、前回から種々討議されて、具体的に定まりつゝある。財政的な点を再調査する事以外にはほゞ次の様に定められた。

大衆新聞、名称は音楽新聞。

四六判八頁、リーフレット型、月一回、第一号発行予定日は十月二十日、発行名義人露木次男、

機関紙の方は十一月から出すべく新聞型にする筈、これは両方とも次回に更に充分に討議する。（音楽新聞の編輯長は露木次男、編輯委員会が兼ねる、編輯事務を取扱ふ人に委員会では澁谷君が与ってゐる。）

一、研究生対策の件

今までの同盟員、研究生の非常に漠然とした規準は現在の同盟の状勢では適應されなくなった。即ち研究生には全然技術的に零の者は入ることが出来なくなる。この事はつまり我々のすでに提案したプロレタリア音楽研究所への方向をとってゐるので現在の形の研究生は研究所が出来るまでのなかば過渡にする。したがってこの研究生対策の件は同盟員の[illegible]として考へられる。そしてこれは時間割制として全同盟員研究生の中からその希望にしたがって聴講せしめる（専門的なれば即ち、楽典、音楽史、音楽美学）。但し一般芸術理論、政治理論、カムパ事時門題、等は全同盟員に出席せしめる。

以上。

定例總会召集

日時、十月七日午後七時、
場所、練習所に於いて、
時間絶対厳守のこと、

会計報告（9月）

収入		支出		残高	
同盟ヒ、					
円 8	銭 55	円 5	銭 70	円 2	銭 85
レコード					
				17	14
		21	38		
		25	00	3	49
楽キ購入キ金					
3	80				
歌曲集、					
11	74				

教育部報告

今月までに二回の部会を開き、教育部の方針を協議した。次に決定事項を簡単に報告する。部長は未定のところ露木に決定す。

課目、

楽典——講師、露木、
音楽史——目下招ヘイ交渉中
音楽美学——仝、
一般芸術理論——仝、
政治理論——仝、
声楽——大久保、市川、関、
（欠席の時は露木、新翁）
器楽——未定、

理論の研究と共に毎月技術批判会を開いて同盟員研究生の技術の高さを計る。その他各部各班から材料を集めて壁新聞を作り、あらゆる方面に於ける問題を、社会状勢に対する観心を絶えず喚起してゆく。

財政部報告

毎週部会を持って絶えず同盟の経済的運轉を計ってゐる。部員安田君が永らく病気のため、研究生の片岡君に代ってもらった。楽器購入基金募集のために企画されたのは

一、基金網の拡大、プロレタリア大衆への宣傳の外に一般文化人へ向って広く宣傳する。

二、音楽会、実行委員会へ等は次々と計画がたてられ、部会で協議してゐる。

同盟ヒは過去何ケ月間全然納入が無かったのに九月中には別記の通り八円以上もの自発的納入を見た。このことは同盟員の財政的関心をうらがきしてゐる。今後全員であはせて四十八円滿納だ。外部へ向って[illegible]のカムパを行ってゐる此の時、内部の者もガムバッテ呉れ。同盟ヒは同盟活動の元動力だ！歯車の油をきらすな！

大阪支準は次の通り
進捗しつゝある

九月下旬第一回準備会が持たれ、左の事を決議した。出席者四名。

一、準備会責任者、書記の決定。

二、準備会ニュースを発行し、準備会の拡大に努力すること。

一、早速合唱の練習をはじめること。

之に対し本部組織部から左の通り返信した。

一、先に送付した一九三一年度の活動方針が如何に討論されたか、その具体化が試せられたのか、以上のレポでは全然明らかでないが、これに就き明確な報告を望むと、もしまだこの討ぎがなされてゐないならば一時も早くやるべきこと。

一、協力者の獲得。

以上。

全じく札幌にも支準が持たれ様としてゐる。之に対しては東京地方の現在の活動状勢を報告し、方針書を送付することゝした。（組織部）

（以上本部）

組織部報告

部員の産別担当が協ぎされ、いそのか方法がとられることになった。すでに一地区では文化団体による地区協ぎ会が持たれてゐるが、各地区に、各地方に文化団体の共同戦線たる協ぎ会が持たれるであらう。それによって他同盟にたいし立ちおくれの気味であったP.Mのサークル組織も急速に進展するであらう。